

平成 28 年度 東蒲原郡道徳部 活動報告

部長 阿部 美和子

1 研究主題

「道徳的実践力を高める道徳授業の在り方」

2 研究の概要

第1回 年間活動計画立案，役割分担

第2回 研究主題に関わる部員の実践情報交換会

第3回 実技研修（情報提供 日出谷小学校 瀧田 徹 教諭）

Q-Uの効果的な活用・A S S E S S（児童理解支援ツール）の理解と活用

第4回 授業研究に関わる指導案検討会

第5回 授業研究「主題：思いやり 教材名：電車でのできごと」

授業者 日出谷小学校 瀧田 徹 教諭

指導者 見附市立上北谷小学校長 平 良徳 様

3 研究の実際

(1) 第2回 部員の実践情報交換会より

- ・ 「特別な教科 道徳」の完全実施に向けて，考え・議論する道徳授業を具現化するために，今から実践を積み重ねていく必要がある。
- ・ 全校道徳は，全校児童共通で身に付けさせたい価値に迫ることができる点で，効果が期待できる。
- ・ 本音を語らせ，なりたい自分に気持ちを向かせる働きかけが大切である。



(2) 第5回 授業研究より

〈授業より〉

教材文には主人公がどのように行動したらよいか迷うところがあり，その後の展開は伏せて児童に提示した。このことにより，児童は「自分ならどうするか」と考え，お互いに本音で意見を交流する姿が見られた。普段から，様々な角度から行動を考える授業実践を積み重ねていることも，本音で語る児童の姿につながったと考えられる。

〈指導者より〉

ねらいには，授業の終わりの児童の姿を想定しておく。本時であれば，「相手に思いやりのある行動をすると，された相手もいい気持ちになるし，自分もいい気持ちになる。だから，思いやりのある行動って大事なのだな」となる。価値に気付き，自分はどうかを考えさせ，実際の行動につなげる流れが重要である。期間限定で取り組ませるのも一つの方法である。

4 成果と課題

部員の実践をもとに日頃の道徳指導を見直したことで，「特別な教科 道徳」のとらえ方や学習活動の在り方について顧問の先生から方向性を教えていただいたことが大きな成果であった。また授業研究および平校長先生のご指導を通して，「考える道徳」「自己を見つめる授業」をどう作っていけばよいのかについて研修を深めることができた。

今後は，授業の終わりに「～したいな」と子どもたちの気持ちが高まる授業をめざし，教材の選定や発問の吟味について研修を深めていく必要がある。